



# ユーザーさん登場 益子・島田東秋氏～自分ブランド作りの出発点～0.5㎡・台車式



島田東秋さん  
昭和56年9月29日生まれ  
25歳  
栃木県窯業指導所終了

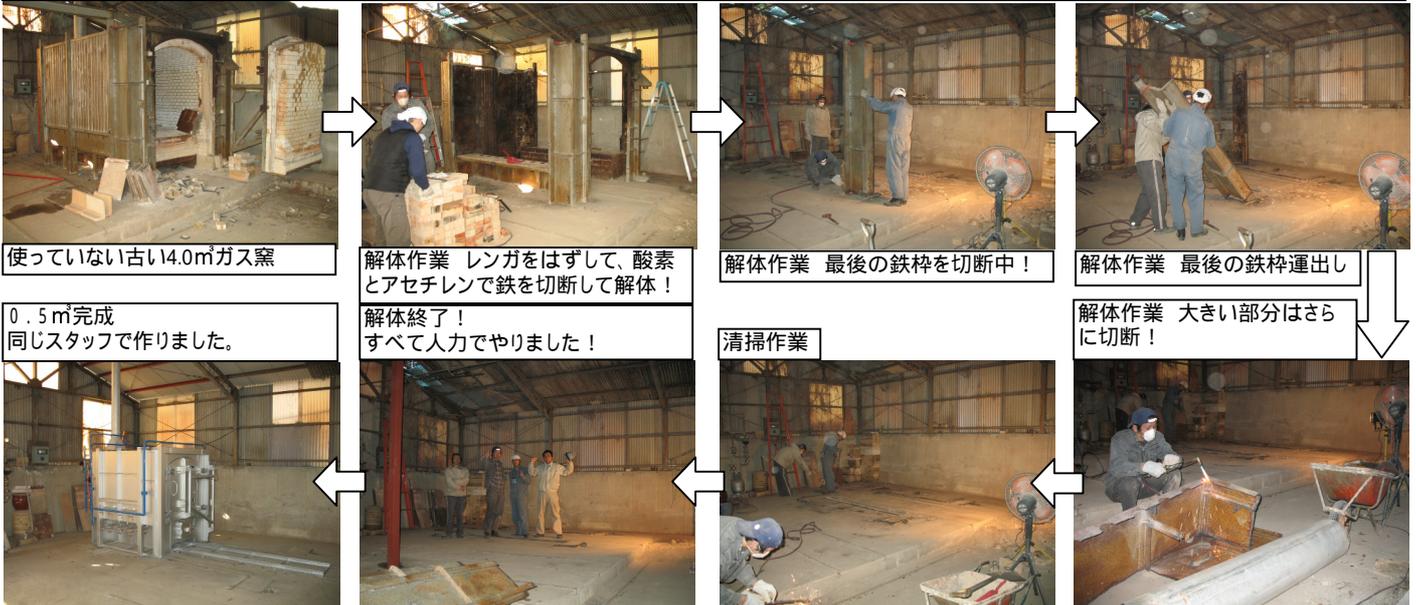
「陶芸家はきびしいですよ」と語るのは益子町「島田陶芸苑」の4代目・島田東秋(もとあき)さん。3月に完成した真新しい0.5㎡ガス窯が彼の専用窯になる。今までは両親の窯と一緒にに入れて焼いてもらっていたが、これからはこの窯をいっぱいしなければならぬ。自由に自分の作品作りに打ち込むことができる。父である島田緋陶志さんは「息子には何も教えていないんだよ」と話してくれた。東秋さんも「親父からは何も教えてもらっていないんです」と言う。一子相伝的に技術を伝えてゆく家も多い中、島田家では伝統的にそうしていると言う。「どうしてですか?」と聞いてみると、「その時代に合ったもの作りをしなければいけないからね。大勢の職人がいた時代もあったんだけどね。」息子には、「自分で、自分の時代に合った、自分だけの作品作りをしてほしい」という父である緋陶志さんの強い意志の現われだ。だから教えない。道は自分で切り開け!という教え。東秋さんは今、自分探しのスタートを切った。島田陶芸苑という広い基礎の上に、どれだけ高い東秋ブランドの塔を建ててゆくか。完成したばかりの窯、当然、中身は何も無い。けれど、この窯を大きく使うも小さく使うも彼の腕次第である。空っぽの窯にどれだけ大きな夢を詰められるか! 未来に! 期待!

## 0.5㎡で壁の厚さ255ミリ、カタログにない窯～その理由は～

通常0.5㎡ですと205ミリ以下のものがほとんどですが、今回は255ミリの炉壁厚を提案しました。弊社のガス窯で使用しているレンガは圧縮強度が4.0MPa以上という硬質レンガを使っています。これは笠間や益子では還元焼成が主流ですので、高い炉圧のヒートショックにも耐えられるものを選定しています。このレンガは非常に蓄熱性も高く冷めにくい性質があります。さらに255ミリにすることでさらに冷めにくくなります。陶芸では窯焚きを「あぶり」と「せめ」と称して温度を上げますが、実際は冷却のスピードも作品に大きく影響します。一般的には「冷め割れ」がありますが、酸化金属に銅を使用した釉薬では冷却が早いときれいな発色になりません。辰砂釉、均窯釉がそれに当たります。徐冷することで釉中の酸化銅がコロイド粒子となってより美しく発色します。東秋さんは若いということもあり、これからあらゆる陶芸に対応できるようにと緋陶志さんと話し合って決定しました。



## 古い4.0㎡ガス窯を解体 0.5㎡(壁厚255ミリ・台車・炭化付き)へ～島田陶芸苑編～



使っていない古い4.0㎡ガス窯

解体作業 レンガをはずして、酸素とアセチレンで鉄を切断して解体!

解体作業 最後の鉄枠を切断中!

解体作業 最後の鉄枠運出し

0.5㎡完成 同じスタッフで作りました。

解体終了! すべて人力でやりました!

清掃作業

解体作業 大きい部分はさらに切断!

### 焼けない古い大きな窯 小さな窯にする2つの得+1

- 少量の注文にすばやく対応
- 時代に合った多品種少量生産にマッチ!
- ペーパーライザーなどのガス設備が使える
- 今ある棚板にあわせて設計可能!
- 仕損じ品が出なくなり原材料代も節約!
- 新品を作ることで解体費用も大勉強!
- やる気が出る!(新製品に挑戦!)
- 社内一貫生産だからガス窯のわがままに対応可!

### 今月の1冊 “陶芸のための科学” 素木洋一著



この本はまさに陶芸の教科書とも言えるべき専門書です。昭和48年初版なので多くの陶芸家がお持ちのことと思います。窯の昇温や釉薬の成分など詳しく書かれています。気になる人は即ゲット! 建設総合資料社より¥4,148-

お客様に学ぶダイチクの今月の格言

**陶芸窯は自分の作風と窯の性能を考えて、  
思いを具現化してくれるものを選ぶべし。**

### 島田東秋・琴絵さん個展情報

場所:(株)つかもと・ギャラリーびんろう  
会期:8月4日～19日  
詳しい情報は  
(株)つかもと・TEL.0285(72)3223